



G7富山環境大臣会合の結果について

2016年5月15日(日)-16日(月)

2016年7月
環境省

G7富山環境大臣会合

日程: 2016年5月15日(日)~16日(月)

場所: 富山県富山市

参加国: G7各国(日、伊、加、仏、米、英、独)、EU

招聘機関: 地球環境ファシリティ(GEF)、持続可能性を目指す自治体協議会(ICLEI)、OECD、UNEP、国連グローバルコンパクト、100のレジリエント・シティ



環境大臣が各国内・世界で果たすべき役割が増しつつあり、気候変動・環境汚染という地球規模での問題に、国内・世界で率先して対処する役割を担うという強い政治的意思を共有した。

以下の議題を取り扱い、コミュニケを採択した。

(議題)

- ・気候変動及び関連施策
- ・資源効率性・3R
- ・持続可能な開発のための2030アジェンダ
- ・生物多様性
- ・化学物質管理
- ・都市の役割
- ・海洋ごみ

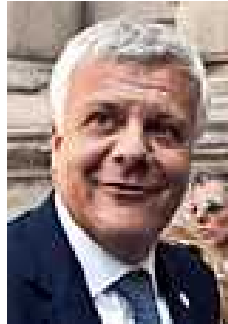
G7富山環境大臣会合：各国出席者

日本



丸川珠代
環境大臣

イタリア



ジャン＝ルーカ・ガレッティ
環境大臣

カナダ



キャサリン・マッケナ
環境・気候変動大臣

米国



ジーナ・マッカーシー
環境保護庁長官

ドイツ



バーバラ・ヘンドリクス
環境大臣

EU



カルメヌ・ヴェッラ
環境・海事・漁業担当欧州委員

フランス



ザヴィエ・スティッカー
環境大使

英国



ソニア・フィパード
環境・食糧・農村地域省
環境・地方局長

G7富山環境大臣会合：国際機関出席者

GEF



石井 菜穂子
CEO兼議長

UNEP



アキム・シュタイナー
事務局長

OECD



玉木林太郎
事務次長

UNEP-IRP



ヤネス・ポトチュニク
国際資源パネル 共同議長

NOWPAP



アレクサンダー・トゥカーリン
調整官

UNGC



メリッサ・パウエル
主席補佐官

G7富山環境大臣会合：結果概要①

気候変動及び関連施策

歴史的な転換点であるパリ協定の採択及び170カ国以上の署名を歓迎し、各国の貢献の早期かつ着実な実施によりリーダーシップを示すことを決意。できる限り早期の協定への参加に向け必要な国内措置を講じ、他国とりわけ主要排出国にも取組を奨励。

また、長期温室効果ガス低排出発展戦略の重要な役割を認識し、同戦略を可能な限り早期に、かつ十分にCOP21で定められた期限内に策定し提出することをコミット。

低炭素社会の実現に向け、効果的・効率的な政策ツールを組み合わせることで国内対策をとることや、環境・社会・企業統治(ESG)投資の促進及び金融システムのグリーン化を通じた経済システムの転換が不可欠であることを認識。また、市場アプローチを含むカーボンプライシングはイノベーション及び低炭素投資の強化に効果的な手段であり、更に促進されるべき旨、強調。

HFC削減に係るモントリオール議定書改正を今年採択することを支持し、本年のICAO総会において世界的な市場型措置に関する合意の重要性を強調。

気候変動の影響への適応について、国内の適応を効果的に推進するための組織的対応・制度を強化することや、科学的知見の充実、情報プラットフォーム、自治体との協力、国際社会との知見の共有の重要性を確認。

資源効率性・3R

G7の取組についての進捗を確認するとともに、引き続き、資源効率性・3Rのために率先して継続的に取り組み、経済成長と天然資源利用との分断(デカップリング)を促進することで一致。また、UNEP国際資源パネル及びOECDからの報告を受け、協調した行動によって、環境のみならず、経済成長、技術革新、資源安全保障及び社会開発に多大な関連する便益をもたらすとの認識で一致。共通のビジョン、G7各国による野心的な行動、グローバルな取組の促進、着実なフォローアップを含む「富山物質循環フレームワーク」を採択。

G7富山環境大臣会合：結果概要②

持続可能な開発のための2030アジェンダ

G7として、昨年9月の国連サミットにおける「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択を歓迎し、「持続可能な開発目標」(SDGs)を中核とする2030アジェンダの実施を、全てのレベルで促進していく強い決意を表明。また、G7メンバーにおいて、SDGsの実施に向けた取組が行われていることを歓迎。

G7メンバーが協調してSDGsの環境的側面の実施に向けた行動を取ることの重要性が改めて共有され、環境問題の解決に向け、本会合後も継続して、実務者レベルでG7としての協調行動を立案していくことで一致。

生物多様性

生態系サービスへの支払等の経済的アプローチを活用した生物多様性の保全についてG7メンバーの経験を基に議論を深め、結果として同アプローチを進めることが重要であることで一致。また、遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分、野生生物の持続可能な利用、野生生物の違法取引への対処、違法伐採への対処、そして海洋生物多様性の保全と持続可能な利用といった課題も、経済的アプローチとリンクしながら、我々G7メンバーが今後引き続き取り組むべきものであるという認識で一致。

化学物質管理

化学物質による悪影響を最小化し、適正に管理していくための取組について努力していくことの重要性を認識するとともに、2020年以降の化学物質と廃棄物の適正管理に関する国際的な議論の加速化に引き続き取り組むことで一致。併せて、水銀に関する水俣条約の早期発効と締約国による効果的な実施を引き続き支持することや、化学物質が子どもの健康や成長に与える影響を理解するための長期的かつ大規模な疫学調査を高く評価しつつ、子どもの環境保健に関する科学的知見の共有を推進することで一致。

G7富山環境大臣会合：結果概要③

都市の役割

気候変動の緩和策や適応策を含む環境保護の対策を促進するにあたり、都市の果たし得る役割の重要性が高まっていることを再確認。これまでも積極的に推進されてきた都市による先進的な取組の促進を、中央政府による取組とあわせて奨励していくことで一致。

※「都市の役割」については、G7メンバーの都市の首長等の参加によるパラレルセッションを開催し、別途議長サマリーをとりまとめた。

海洋ごみ

昨年のエルマウ・サミットで合意された行動計画（首脳宣言附属書「海洋ごみ問題に対処するためのG7行動計画」）に関して、今後の効率的な実施の重要性について再認識するとともに、G7として、各国の状況に応じ、優先的施策の実施にコミットすることにつき一致。

さらに、G7として、ベスト・プラクティスを共有し、G7以外の国に対するアウトリーチ活動を促進するため、定期的なフォローアップにコミットすることに合意。

震災復興等

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した地域における環境回復及び復興の進展の現状を説明。日本は、進展中の除染に関する情報と、それが一部地域における避難指示の解除及び地域経済の再生に貢献していることについて説明し、その他のG7環境大臣及びEU代表はその報告及び日本の取組を歓迎。

また、熊本及び大分での最近の悲惨な地震によって被災した方々、並びに自然災害やそれによって引き起こされた環境の劣化に苦しんでいる方々に対して、心からの連帯の意を表明。

将来の会合

議長権を有するG7各国が、それぞれの議長国の権限に従いG7環境大臣会合の定期開催を検討すべきであるという同一の見解を共有。

G7富山環境大臣会合:エクスカーショーン・展示

環境省主催エクスカーショーン(5/16)

丸川大臣等が同行し、G7メンバーを含む50名程度がイタイタイ病資料館等を視察。



富山環境展(5月13～16日)

国(環境省、復興庁等)、県、市、北陸電力、三協立山、YKK、国立環境研究所等が出展し、国や企業の環境の取組を各国や市民にアピール。



地元主催エクスカーショーン(5/14)

鬼木政務官が同行し、G7メンバーを含む50名程度が立山等を視察。



地元主催エクスカーショーン(首長向け)(5/16)

ブリストル、フィレンツェ等G7各国から環境保全都市の首長がセントラムなどコンパクトシティ政策について視察。



都市の役割に関する平行セッション

日程: 2016年5月15日(日)

場所: 富山県富山市

参加者: 富山、北九州、東松島、フィレンツェ、バンクーバー、フランクフルト、
ヴィトリー・ル・フランソワ及びブリストルの各市の市長並びにGEF(石井CEO兼
議長)、関係機関等

共同議長: 森 雅志 富山市長

浜中 裕徳 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)理事長



結果概要

- G7環境大臣会合では初の試みとして、「都市の役割」をテーマとした平行セッションを一般公開で開催。
- 環境省からは鬼木環境大臣政務官が出席し、冒頭、都市の役割の重要性や都市の気候変動対策に関する日本の取組について発表。
- 先進的な都市の事例の共有や、取組の推進のために中央政府が果たすべき役割について議論し、先進的な取組の更なる支援、都市間連携等の促進、都市の役割の主流化等に関するG7各国政府への期待を共有し、議長サマリーをとりまとめた。

朝食セッション(海洋ごみ、都市の役割)

16日の朝食セッションでは、「海洋ごみ」「都市の役割」について、それぞれ報告を受け、G7大臣間での議論が行われた。



海洋ごみ



海洋ごみ問題対策の取組について、環境省、富山県、国際機関から発表があった。

特に、石井隆一富山県知事からは、我が国全体の海洋ごみ問題の現状や富山県における海洋ごみの処理や発生抑制のための取組、国際協力の推進状況等について報告し、議論をリードしていただいた。

都市の役割



森雅志共同議長から、パラレルセッション「都市の役割」の結果取りまとめた議長サマリーについて報告いただくとともに、今後のG7環境大臣会合においても、同様の機会が設けられることへの期待が示された。

東日本大震災等からの復興と熊本及び大分の地震

東日本大震災からの環境回復と復興



丸川環境大臣から、5月15日のオープニングセッションにおいて、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの環境回復と復興の状況として、除染の着実な進展、空間線量率の推移と避難指示の解除、地域経済の再生等の復興への動きについて報告。

福島県の地酒の提供

徹底したモニタリング検査を経て安全が確認された、福島県の名産であるおいしい地酒を提供し、安全性等に関する理解を促した。



熊本及び大分の地震

熊本及び大分の地震に対する世界各国からのお見舞いのメッセージに感謝するとともに、日本より政府として全力で復旧・復興に取り組むことを表明。

また、熊本及び大分での地震によって被災した方々、並びに自然災害やそれによって引き起こされた環境の劣化に苦しんでいる方々に対して、心から連帯の意を表明。